千葉県八千代市

市内遺跡発掘調査報告

平成７年度

八千代市教育委員会

例　　言

1. 本書は、八千代市内に所在する、南台遺跡、正覚院館跡、ヲイノ作南遺跡、逆水西遺跡、おおびた遺跡の発掘調査の報告書である。
2. 調査は、八千代市教育委員会が平成７年度市内遺跡発掘調査事業として国庫及び県費の補助を受けて実施した。
3. 調査遺跡の所在地、期間、面積、調査原因は下記のとおりである。

No.	遺跡名	所在地	調査期間	面積	調査原因
1	南台遺跡（みなみだい）	保品字栗谷2070－５	7.7.26	28m²／3,937m²	老人ホーム建設
2	正覚院館跡（しょうかくいん）	村上1524	7.10.4	4m²	墓地造成
3	ヲイノ作南遺跡（をいのさくみなみ）	大和田新田911－１外	7.11.10～7.12.15	1,720m²／17,200m²	共同住宅建設
4	逆水西遺跡（さかみずにし）	米本字逆水1317	8.1.10～8.1.23	146m²／1,340m²	墓地造成
5	おおびた遺跡	保品字平台1128－22	8.3.4～8.3.15	473m²／4,737.09m²	墓地造成

4. 整理作業及び報告書作成作業は平成８年３月４日から３月21日までの期間行なった。
5. 本書の執筆は、森がⅠ・Ⅱ－４を、常松がⅡ－５を、宮沢がⅡ－１・２・３を行なった。
6. 本書の出土遺物の写真撮影は宮沢が行なった。

目　　次

Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1
Ⅱ　各遺跡の概要 …… 3
　1. 南台遺跡 …… 3
　2. 正覚院館跡 …… 4
　3. ヲイノ作南遺跡 …… 6
　4. 逆水西遺跡 …… 8
　5. おおびた遺跡 …… 10
報告書抄録 …… 12
調査組織 …… 16

挿図目次

第1図　調査遺跡位置図 …… 2
第2図　南台遺跡位置図 …… 3
第3図　南台遺跡トレンチ配置図 …… 4
第4図　正覚院館跡位置図 …… 4
第5図　正覚院館跡トレンチ配置図 …… 5
第6図　ヲイノ作南遺跡位置図 …… 6
第7図　ヲイノ作南遺跡遺構検出状況図 …… 7
第8図　ヲイノ作南遺跡土層断面図 …… 8
第9図　逆水西遺跡位置図 …… 8
第10図　逆水西遺跡遺構検出状況図 …… 9
第11図　おおびた遺跡位置図 …… 10
第12図　おおびた遺跡遺構検出状況図 …… 10

図版目次

図版1　南台遺跡・正覚院館跡 …… 13
南台遺跡
(1) 調査風景
(2) 調査区遠景
(3) トレンチ掘削状況
(4) トレンチ掘削状況
正覚院館跡
(5) 調査風景
(6) トレンチ完掘状況
(7) 宝篋印塔
(8) トレンチ出土遺物
図版2　ヲイノ作南遺跡 …… 14
(1) 調査前風景
(2) 調査風景
(3) 遺構検出状況
(4) 遺構検出状況
(5) 遺構検出状況
(6) 土層断面（O－21グリッド北壁）
(7) トレンチ出土遺物
(8) トレンチ出土遺物
図版3　逆水西遺跡・おおびた遺跡 …… 15
逆水西遺跡
(1) 遺構検出状況
(2) 遺構検出状況
(3) トレンチ出土遺物
(4) トレンチ出土遺物
おおびた遺跡
(5) 遺物出土状況
(6) 遺構検出状況
(7) 遺構検出状況
(8) トレンチ出土遺物

Ⅰ　調査に至る経緯

本市は東京への通勤圏として、ベッドタウン化がより顕著になりつつある。そのため、宅地、諸施設の充実や交通網の整備等開発事業が多い状況となっている。こうした中、市教育委員会では千葉県教育委員会の指導のもと、埋蔵文化財の有無についての照会によりその保護に努めてきたところである。

調査した遺跡

南台遺跡　平成７年１月、山崎進氏より特別養護福祉施設建設のため、埋蔵文化財の有無についての照会が提出された。これをうけ市教育委員会では、現地踏査を行った。照会地はプレハブ等工事事務所として使用されており、表面観察は困難であった。隣接の畑地においては奈良・平安時代等土師器が散布しており、周知の遺跡にも極めて近い状況から遺跡の所在が想定された。そのため、事業者に遺跡が所在する旨回答し、協議が進められた。プレハブ等現状では移動が困難のため、現況建物の間をぬってトレンチを設定し、遺構確認を行う方法をとった。平成７年７月に確認調査を実施した。

正覚館跡　平成７年９月、宗教法人正覚院代表役員の林氏より市指定有形文化財の宝篋印塔について墓地整備のため、移動したい旨連絡を受けた。これをうけ市教委では県文化課と協議した結果、移動後塔の下層について発掘調査を実施する旨指導をうけた。平成７年10月、工事着手に並行して発掘調査を実施した。

ヲイノ作南遺跡　平成６年度において、安原徳氏の埋蔵文化財の照会について有り回答した案件である。６年度については、補助金等の関係から飼料畑部分について確認調査を実施した。今年度は残余部分の山林を主体とした箇所について下草伐採後、確認調査を実施した。

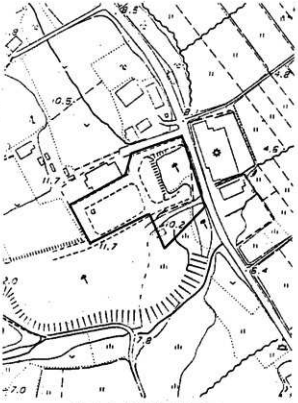
逆水西遺跡　平成７年11月、櫻井盛正氏より墓地造成のため、埋蔵文化財の有無についての照会が提出された。これをうけ市教育委員会では、現地踏査を行った。照会地は荒れ地のため、表面観察は困難であった。隣接の畑地においては弥生～古墳時代等の土器が散布しており、周知の遺跡の範囲内のため、遺跡の所在が想定された。そのため、事業者に遺跡が所在する旨回答し、協議が進められた。下草伐採後平成８年１月に確認調査を実施した。

おおびた遺跡　平成８年２月、日興不動産㈱より墓地造成のため、埋蔵文化財の有無についての照会が提出された。これをうけ市教育委員会では、現地踏査を行った。照会地は資材置場のため、表面観察は困難であった。隣接の畑地においては縄文～平安時代等の土器が散布しており、周知の遺跡の範囲内のため遺跡の所在が想定された。そのため、事業者に遺跡が所在する旨回答し、協議が進められた。一部資材の移動後、平成８年３月に確認調査を実施した。

第Ⅰ図　調査遺跡位置図

II　各遺跡の概要

1. 南台(みなみだい)遺跡



第２図　南台遺跡位置図　S＝1：2,500

遺跡の立地と概要

南台遺跡は、新川を北東に臨む河岸段丘の下位段丘平坦面に位置し、標高は約10mで、水田面との比高は約５ｍを測る。近隣の遺跡として南側上位段丘面に境堀遺跡、神野群集塚、同じく西側上位段丘面に神野貝塚等が展開する。調査区は本遺跡東南端に位置し、現況は土木工事現場事務所および資材置場となっている。

調査の方法と経過

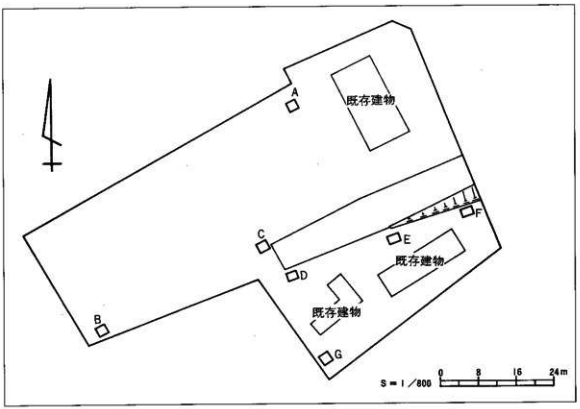
調査区は過去に土取り工事が行なわれていたため地山が残っているかどうか、残っている場合、遺構が検出されるかどうかを目的に、既存の建物および資材の間をぬって２ｍ×２ｍのトレンチを７ヵ所設定し、遺構が検出された場合、随時、トレンチを拡張する方針のもとで調査を実施した。調査期間は平成７年７月26日に開始し、同日、埋め戻しまで含め終了した。

調査の概要

各トレンチを重機で掘削可能な深さまで掘削を行ったが、地表直下より産業廃棄物が多量に出土し、地山の検出はできなかった。各トレンチの掘削深度は次のとおりである。Ａ－140cm、Ｂ－140cm、Ｃ－140cm、Ｄ－150cm、Ｅ－110cm、Ｆ－160cm、Ｇ－100cm。上記の深さまで掘削を行い、依然、産業廃棄物が多量に出土しそれ以上の掘削は、不可能であった。遺物の出土もみられなかった。

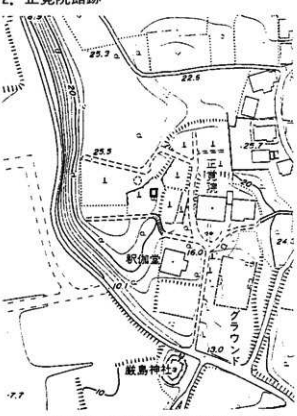
調査のまとめ

以上の事から、当調査区においては、全域攪乱を受けていて遺構は無いと判断し、埋め戻しを行い現況に復した。



第３図　南台遺跡トレンチ配置図

2. 正覚院館跡（しょうかくいんやかたあと）



第４図　正覚院館跡位置図　S＝1：2,500

遺跡の立地と概要

正覚院館跡は新川の東岸の台地平坦部に立地する。標高は25m前後で水田面との比高は約17mである。近隣の遺跡として、本遺跡北側に古墳時代後期を主体とする持田遺跡があり、正覚院館跡と一部範囲がかさなる。平成５年には今回調査の北側隣接地を調査し古墳時代後期の住居跡12軒、中世の堀跡１条等を検出している。（中世の堀跡は正覚院館跡の一部である。）

調査の方法と経過

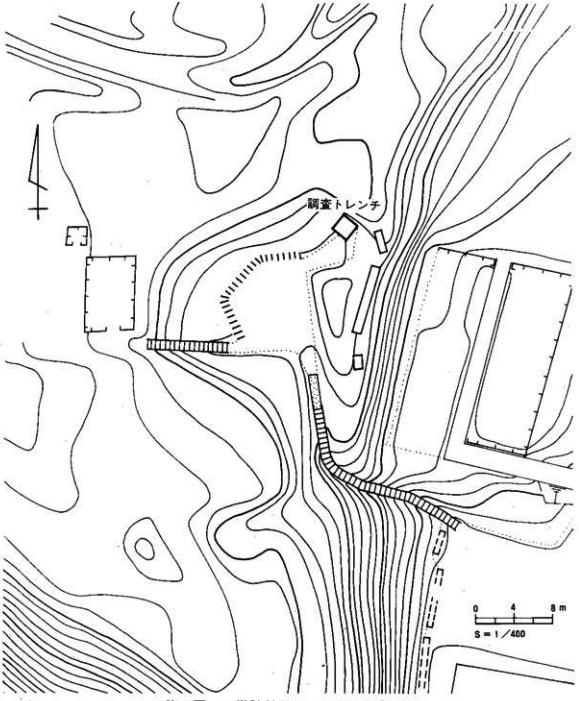
調査は、正覚院館跡内にある宝篋印塔の下層になんらかの遺構を伴うかどうかの確認および調査を目的に行なわれ、宝篋印塔移転後に２ｍ×２ｍのトレンチを設定し調査を実施した。調査期間は平成７年10月４日に開始し、同日、埋め戻しまで含めて終了した。

調査の概要

地表面よりソフトローム上面までの掘削を行なったが、ソフトローム上面まで至る攪乱を１基検出したのみで、宝篋印塔に伴うと思われる遺構は検出できなかった。出土遺物としては、攪乱内より奈良・平安時代の土師器片９点、板碑片１点がある。

調査のまとめ

今回、宝篋印塔に伴う遺構の検出は見られなかったが、攪乱内とはいえ板碑片が出土していることなどから、正覚院館跡内に宝篋印塔に直接関わる、あるいは関連する中世に遡る遺構がある可能性が高くなった。今後、調査例を増やし、あわせて検討して行きたい。



第５図　正覚院館跡　トレンチ配置図

3. ヲイノ作南遺跡

第6図　ヲイノ作南遺跡位置図　S＝1：2,500

遺跡の立地と概要

ヲイノ作南遺跡は、桑納川から南に入る谷の最奥部に位置する台地上平坦部に立地する。標高は27m前後である。近隣の遺跡として、北東部の小支谷を隔てて、縄文時代を主体としたヲイノ作遺跡があり昭和62～63年に本調査を実施している。

本遺跡においては、調査区北側の舌状台地先端部を昭和63年に本調査しており、縄文時代前期関山期の住居跡4軒と土坑14基、溝状遺構1条が検出されている。また、平成6年度においては昭和63年の調査区の南側の確認調査を実施しており、縄文時代前期の住居跡14軒を検出している。平成7年度の調査区は平成6年度調査区のさらに南側の隣接地に位置し、現況は山林と一部畑となっている。

調査の方法と経過

調査は平成6年度調査の隣接地であるため、前回調査時に設定したグリッドを延長し、10mの方眼を組んだのち、山林の状況を考慮しながら、基本的にはこれに平行する形でトレンチを設定して調査した。

調査期間は平成7年11月10日～平成7年12月15日で、11月10日～13日機材搬入および環境整備、14日～27日方眼杭およびトレンチ設定、15日～28日人力による包含層確認掘削作業、24日～30日重機による表土除去、27日～12月6日遺構検出作業、29日～12月7日実測・撮影等記録作業、12月7日～8日機材撤収、12月9日～15日重機による埋め戻しを行い調査を終了した。

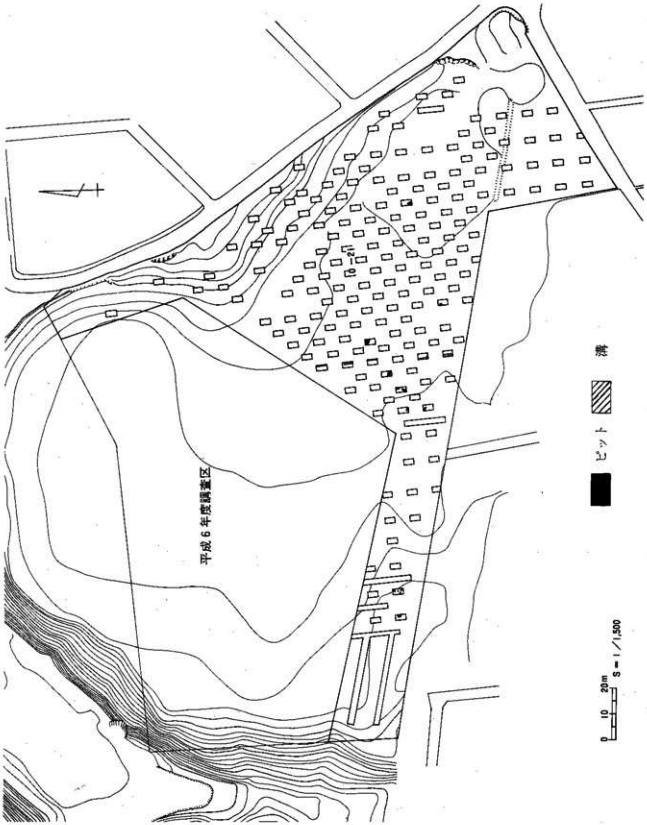
調査の概要

調査区の基本層序は、Ⅰ表土層、Ⅱ黒色土層、Ⅲ黄褐色土層（新期テフラ層）、Ⅳ暗褐色土層、Ⅴローム漸移層、Ⅵソフトローム層となっている。遺構検出作業はⅤ層下層～Ⅵ層で行なった。

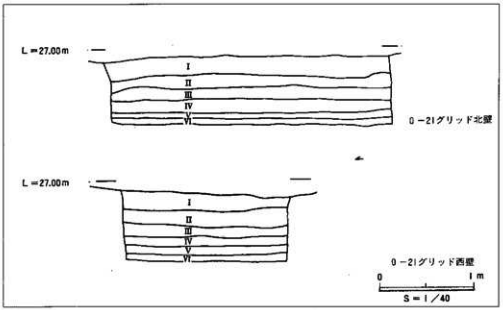
調査の結果、縄文時代の落とし穴と思われる土坑10基、時期不明の溝1条（平成6年度調査時に検出した溝と同一の溝と思われる）、時期不明の土坑3基を検出した。遺物包含層は検出されなかった。遺物の出土量自体も少なかったのだが、あえて傾向をあげるとすれば縄文時代前期の土器が主体を占めていた。

調査のまとめ

今回の調査では、前回調査の南側隣接地を調査したわけだが、住居跡が検出されなかった。これは当調査区は居住域の範囲外にあたっていたためであろう。前回、前々回の調査と今回の調査結果から舌状台地上の縄文時代前期の集落の展開が明らかになったといえるだろう。



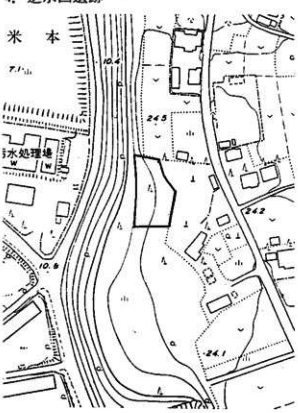
第７図　ヲイノ作南遺跡遺構検出状況図



I　表土層　　IV　暗褐色土層
II　黒色土層　　V　ソフトローム漸移層
III　黄褐色土層（新期テフラ）　VI　ソフトローム層

第８図　ヲイノ作南遺跡土層断面図

4. 逆水西遺跡（さかさみずにし）



第９図　逆水西遺跡位置図　S＝1：2,500

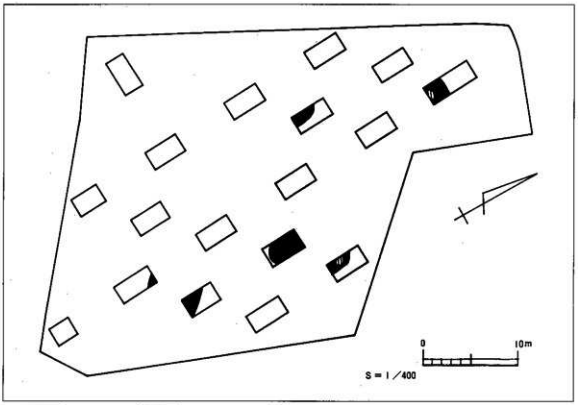
遺跡の立地と概要

逆水西遺跡は、北へ流れる新川の東岸台地上に位置し、標高約27mを測る。現在までに近接、隣接地において発掘調査を実施した区域はなく、今回の発掘調査において本地区の一部が明らかになることと思う。

調査の方法と経過

調査は調査区の形状に沿って10m間隔にトレンチ（２×４m規模）を設定し掘り下げを行なった。遺構の検出状況を見ながら更にトレンチを設定し、捕捉に努めた。

調査期間は平成８年１月10日～１月23日で、10日機材搬入、方眼杭設定後トレンチ設定、11日～16日手掘りによる包含層及び遺構確認作業、16日重機による表土除去、17日～22日遺構確認作業、遺構確認状況撮影等記録作業、23日機材撤収により調査を終了した。



住居跡　ピット

第10図　逆水西遺跡遺構検出状況図

調査の概要

基本層序は、Ⅰ表土層、Ⅱ黒色土層、Ⅲ褐色土層、Ⅳソフトローム層となっている。遺構確認はⅢ層及びⅣ層上面において行なった。遺物はⅡ～Ⅲ層の境において弥生後期～古墳・平安時代の土器が出土しⅢ層中～下層において縄文土器が出土する。

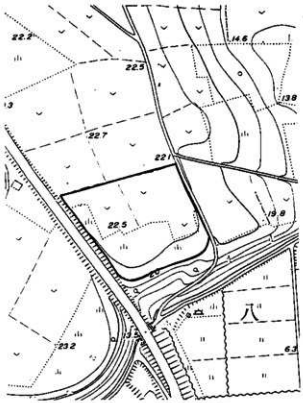
調査の結果、縄文時代前期の住居跡１軒、弥生時代後期の住居跡３軒、平安時代のピット２基を検出した。縄文前期の住居跡は暗褐色の埋積土で平面形は一部分ではあるが、円形ないし楕円形状を呈する。弥生後期の住居跡は黒褐色の埋積土で平面形は隅丸長方形を呈する。住居跡の規模はトレンチの拡張から想定すると７ｍ×5.5mないし８ｍ×５ｍ程度である。平安時代のピットは弥生後期の住居跡と重複して検出されている。埋積土は明茶褐色砂質粘土で平面形は隅丸長方形を呈する。規模は1.1ｍ×0.9ｍ程度である。遺物は確認面において、土師器小皿が底部を上にして出土している。

出土遺物は、縄文時代では早期の茅山式、前期の浮島・諸磯式、中期の阿玉台式が各々少量出土している。弥生時代では、後期（印手系か？）の小片がごく少量出土している。平安時代では、土師器小皿が４点出土している。底部糸切り後未調整で小さいものは口径7.5cm、大きいものは口径9.5cm程度である。その他古墳時代前期の遺物も極めて少量出土している。

調査のまとめ

今回の確認調査では縄文・弥生・平安時代の住居跡及びピットを確認することができた。遺物の出土量が極端に少ないため弥生後期の住居跡については古墳時代前期となる可能性も考えられる。今後、本調査が予定された場合に期待したい。部分的ではあれ、本地区の遺跡状況について明らかにできたことは有意義であったと思う。

5. おおびた遺跡



第11図　おおびた遺跡位置図　S＝1：2,500

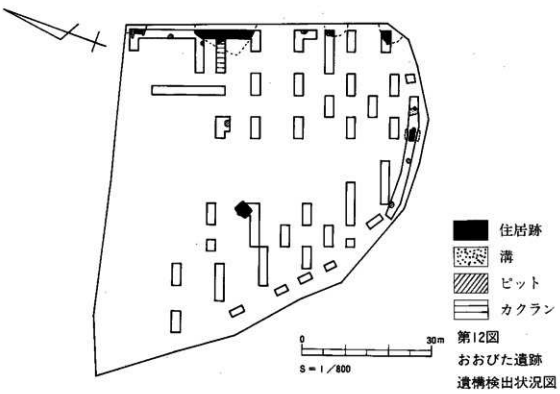
遺跡の立地と概要

おおびた遺跡は、新川の低地を北東に臨む河岸段丘の上位面に立地する。本遺跡の東側の段丘下位面には保品須賀遺跡が、西側には平台遺跡が隣接し、南側には谷を隔てて南谷遺跡が存在する。

今回の調査区は、遺跡範囲の南端の台地縁辺部にあたり、標高は22～20mである。現況は資材置場となっている。本遺跡の北端においては、昭和48年に八千代市少年自然の家建設に先行する発掘調査が行なわれ、先土器時代から古墳時代後期に至る各遺物・遺構が検出され、報告書が刊行されている。また平成７年には少年自然の家敷地内で増設工事に先行する確認本調査が行なわれ、古墳時代前期の住居跡などが検出されている。

調査の方法と経過

対象区域をその形状にあわせて、10m×10mのグリッドに区画し、これをもとに資材と構内道路を避けつつ２m×５mのトレンチを設定した。適宜拡張や補足トレンチを設定しながら、遺構検出に努めた。



第12図
おおびた遺跡
遺構検出状況図

経過は、平成８年３月１日までに機材搬入、４日に基本杭打ち、５～６日にトレンチ設定と人力による掘削、７～８日に重機による掘削、11～13日に遺構検出及び記録、14～15日に機材を撤収、18日に埋め戻しを行い調査を終了した。

調査の概要

調査の結果、対象地のほとんどは削平および掘削・埋土により破壊されていることが判明した。しかし地境に接する区域には破壊が及んでおらず、ここを中心に遺構が遺存していた。弥生時代住居跡３軒、奈良平安時代住居跡３軒、弥生時代溝１条、縄文時代ピット３基、弥生時代ピット２基、奈良平安時代ピット３基を検出した。土層は調査区南東部に良好な堆積が残っており、Ⅰ盛土、Ⅱ暗褐色土層、Ⅲ褐色土層（新期テフラ）、Ⅳ暗褐色土層、Ⅴ褐色土層、Ⅵソフトローム層、Ⅶハードローム層を確認できた。

遺物は縄文時代草創期・早期土器、弥生時代後期土器、奈良平安時代土師器・須恵器を検出した。また平安時代と考えられる住居跡の覆土に貝（ハマグリ）のブロックが認められた。

調査のまとめ

これまでおおびた遺跡の南部については調査が行われていなかったが、今回の調査によりその一端を確認することができた。調査区は大規模な破壊を受けているが、破壊を免れた区域には比較的高密度に遺構が分布している。周辺の畑地にも遺物が多く散布しており、旧印幡沼に面する台地上という立地条件も考慮すれば、多時期にわたる大規模な集落跡がこの地に残されている可能性が高い。また今回の調査では、弥生時代と考えられる１辺10m規模の大型住居跡を検出しており、注目に値する成果と言えよう。

報告書抄録

ふりがな	ちばけんやちよししないいせきはっくつちょうさほうこく　へいせい7ねんど
書名	千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告　平成7年度
編集者名	森竜哉・常松成人・宮沢久史
編集機関	八千代市教育委員会
所在地	〒276　千葉県八千代市大和田新田312－5　TEL. 0474-83-1151
発行年	西暦　1996年3月29日

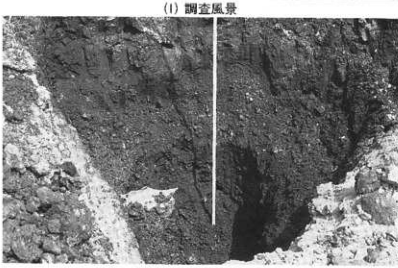
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	°′″	°′″			
南台遺跡	八千代市保品字栗谷 2070－5	12221	72	35度 45分 39秒	140度 8分 11秒	1995.7.26	28m² ／3,937m²	老人ホーム建設
正覚院館跡	八千代市村上1524	12221	201	35度 43分 36秒	140度 7分 5秒	1995.10.4	4m²	墓地造成
ヲイノ作南遺跡	八千代市大和田新田 911－1外	12221	－	35度 43分 27秒	140度 5分 1秒	1995.11.10 ～ 1995.12.15	1,720m² ／17,200m²	共同住宅建設
逆水西遺跡	八千代市米本字逆水 1317	12221	－	35度 45分 32秒	140度 7分 3秒	1996.1.10 ～ 1996.1.23	146m² ／1,340m²	墓地造成
おおびた遺跡	八千代市保品字平台 1128－22	12221	86	35度 45分 16秒	140度 8分 43秒	1996.3.4 ～ 1996.3.15	473m² ／4,737.09m²	墓地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
南台遺跡	散布地	縄文時代	無し	無し	無し
正覚院館跡	城館跡	中世	無し	奈良平安時代土師器、中世板碑	無し
ヲイノ作南遺跡	集落跡	縄文時代	土坑　13基 溝　1条	縄文土器	無し
逆水西遺跡	集落跡	弥生時代	住居跡　4軒 土坑　2基	縄文土器、弥生土器、奈良平安時代土師器	無し
おおびた遺跡	集落跡	奈良平安時代	住居跡　6軒 土坑　8基 溝　1条	縄文土器、弥生土器、奈良平安時代土師器・須恵器	無し

図版Ⅰ　南台遺跡(1)〜(4)・正覚院館跡(5)〜(8)

(1) 調査風景

(2) 調査区遠景



(3) トレンチ掘削状況

(4) トレンチ掘削状況

(5) 調査風景

(6) トレンチ完掘状況

(7) 宝篋印塔

(8) トレンチ出土遺物

図版2　ヲイノ作南遺跡

(1) 調査前風景

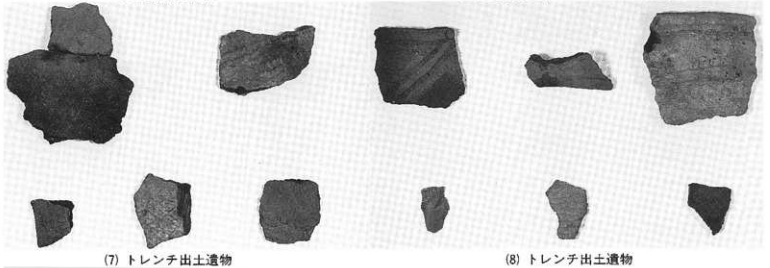
(2) 調査風景

(3) 遺構検出状況

(4) 遺構検出状況

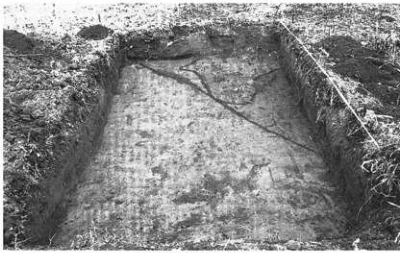
(5) 遺構検出状況

(6) 土層断面（O－21グリッド北壁）

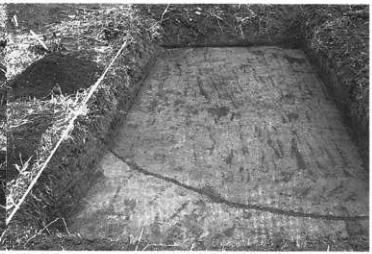


(7) トレンチ出土遺物　　(8) トレンチ出土遺物

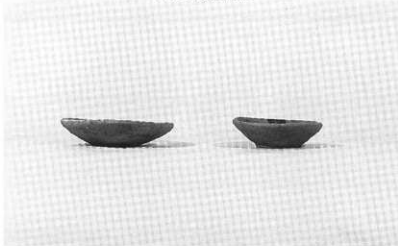
図版3　逆水西遺跡(1)～(4)・おおびた遺跡(5)～(8)



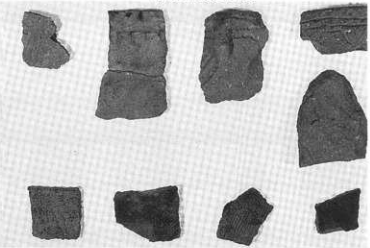
(1) 遺構検出状況



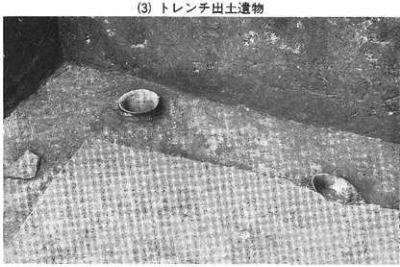
(2) 遺構検出状況



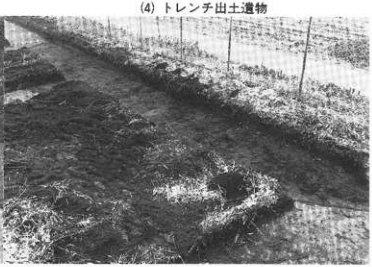
(3) トレンチ出土遺物



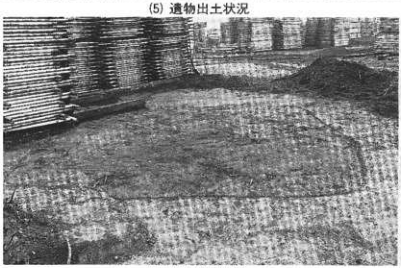
(4) トレンチ出土遺物



(5) 遺物出土状況



(6) 遺構検出状況



(7) 遺構検出状況

(8) トレンチ出土遺物

調　査　組　織

調査主体者　磯貝　謹吾（八千代市教育委員会教育長）

事務担当者　村越　利光（八千代市教育委員会生涯学習部長）
今井　利久（八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課長）
川口　聖憲（八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課副主幹）
小名木伸雄（八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課文化係長）
赤羽　克則（八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課文化係副主査）
秋山　利光（八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課文化係主事）
森　　竜哉（八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課文化係主事）

調査担当者　森　　竜哉（八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課文化係主事）
常松　成人（八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課文化係主事）
宮沢　久史（八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課文化係主事）

調査補助員　熱田さだ子　熱田　節子　阿部るみ子　石川　あき　石森　秀子　齊藤　千代
庄司　京子　鈴木　一代　鈴木　時子　立石　勝代　立石　春枝　立石ふく子
立石みね子　豊田　八重　平田三恵子　村越美津子　山口　栄子　山口　ひで
吉川　志代　落亀　昌子　遠藤　玲子　室井　恭子　矢尾ヤス子　渡辺　虎男
伊藤　勇治　上田真里子　宇津木ひろみ　小形　幸子　澤柳　安子　杉山　紀子
高橋　道子　寺澤　洋子　堀井　弥生　真坂　信雄　眞島　達志

整理補助員　落亀　昌子

事　務　員　三宅由美子

千葉県 八千代市

市内遺跡発掘調査報告

印刷日　1996年3月25日
発行日　1996年3月29日
発　行　八千代市教育委員会
生涯学習部社会教育課
〒276 八千代市大和田新田312－5
TEL. 0474 (83) 1151
印　刷　㈱八千代印刷